

～ 小中一貫教育を通して、子どもたちの心身の健やかな成長を目指します。～

1 研究テーマ

地域学校園授業コンセプトに基づいて行う、児童生徒の思考力の育成

すこやか河内学校園授業コンセプト

「思考の言語化 -『なぜ』と問いかける授業を通して」

「なぜ」と問いかける児童生徒の思考を言語化し、論理的か否かを検証する。必要に応じて語彙・表現の方法などを指導し、正しく思考できるよう支援していく。

2 研究内容

(1) コンセプトに基づいた授業実践

- 「思考の言語化」を目指した、発表ボードを活用した授業実践



【小学1年生 図画工作】

【小学6年生 国語】

【中学2年生 理科】

- ・ 間違えたときに消しゴムで消すのにはかなりの抵抗があるが、ホワイトボードはすぐきれいに消せるので、発想の試行錯誤がしやすい。
- ・ 言葉はその場で消えてしまうが、ホワイトボードに残った文字は俯瞰的に考え直しをすることができる。
- ・ 話し合いの際に、試行錯誤の中で書いたり消したりすることができ、使いやすい。
- ・ 発表ボードを掲示して発表することで、全体で見合うことができる。

(2) 教科部会の設置

- 小中合同の教科部会を設置し、共通の課題を設定して授業に取り入れ、指導の改善を行っている。

教科	共通課題	教科	共通課題
国語	さまざまな表現活動において、漢字力、語彙力を生かせる児童生徒の育成のための言語事項(漢字・語句・文法)の指導の工夫。	図画・工作 美術	生涯にわたって造形活動を楽しんでいく人を育てる図工・美術の授業～真剣な楽しさを追求して～
社会	言語活動の充実に向け、自己の考えや意見を論述する力の育成。	体育 保健体育	運動に親しむための体力づくり。
算数 ・数学	図形分野が年度末に集中してしまうため、図形分野以外の単元でも図形感覚を養うために、課題の与え方を工夫していく。	家庭 技術・家庭	既習内容をさまざまな場面で活用できる児童・生徒の育成。
理科	観察・実験のレポートのまとめ方を、しっかりと指導していく。	英会話 ・英語	中学校1年生における音声と文字のギャップ解消のため、音声から綴りを連想できるような児童生徒を育成する。
音楽	① 姿勢 ② 口の開き方 ③ 表情(笑顔で)	特別支援 教育	事例検討会を通し、児童生徒への支援のあり方を検討し支援に役立つ。

(3) 外部指導者の招聘

- 8月5日(月)、宇都宮市教育センター1階コミュニティホールにて、栃木県教育委員会事務局学校教育課チームリーダー 市村政幸 先生より、「とちぎの子ども」の学力の実態と学習指導のポイント」という演題で講話をいただいた。

- ① 学力の基本理念
- ② 本県の児童生徒の学力の状況
- ③ 本県の学力向上対策
- ④ とちぎっ子学習状況調査

☆ 調査のメリット

- ・ 児童生徒は、主体的に学ぶことができるようになる。
- ・ 保護者は、自分の子どもの状況を把握することができる。
- ・ 教員は、自らの指導を改善することができる。
- ・ 学校は、学力向上に向けて、全職員で組織的に取り組むことができる。



3 まとめ(成果と課題)

(1) 成果

- ・ 「発表ボード」の様々な活用例が共有され、地域学校園内で行われる授業の多くで、「思考の言語化」が試みられるようになった。
- ・ 「発表ボード」の使用により、考えをまとめる際に容易に書いたり消したりすることができるので、思考を発展させることに役立つ。
- ・ 講話を通して、小中で共通の話題を持つことができた。また、「学力」についての認識が新たになり、日々の授業に生かすことができている。

(2) 課題

- ・ 「学校園授業コンセプト」については、年度当初や授業研究会など、機会をとらえて周知を図っている。しかし毎年教員の異動があるため、地域学校園の全教員が「コンセプト」に習熟し、個々の授業に生かすことができるようになるよう、継続して働きかけを行っていかねばならない。
- ・ 各教科部会では、「共通課題」の設定の段階までは到達した。今後は教科ごとの課題に即した、具体的な取組を進めていく必要がある。